

1 教育に関する現状

前計画の課題を統計データ、アンケート調査結果及び事務事業点検評価※に基づいて整理しました。なお、アンケート調査の概要は下記の通りとなります。

※アンケート調査結果報告書は下記URLあるいは右記の二次元コードから閲覧できます。

https://www.city.sayama.saitama.jp/shisei/shisaku/kyouikubunka/4_kyoiku_keikaku.files/4th_anketo_chosa.pdf



① 調査対象

一般市民：16歳以上の市民

児童生徒：小学5年生・中学2年生（クラス選抜）

保護者：児童生徒の保護者

教職員等：校長、教頭、教員、県費事務等

関係団体：社会教育関係団体、図書館関係団体、スポーツ関係団体

② 調査期間

令和6年12月16日～令和7年1月20日

③ 調査方法

郵送による配布・回収及びWEBによる回答

④ 配布数

	配布数	有効回答数	有効回答率
一般市民	3,000 通	925 通	30.8%
児童生徒	768 通	540 通	70.3%
保護者	768 通	393 通	51.2%
教職員等	581 通	396 通	68.2%
関係団体	41 通	25 通	61.0%
スポーツ関係団体	368 通	248 通	67.4%

※各種統計データは下記URLあるいは右記の二次元コードから閲覧できます。

https://www.city.sayama.saitama.jp/shisei/shisaku/kyouikubunka/kyoiku-toukei_date.html



2 第3次狭山市教育振興基本計画の評価

前計画で掲げた施策に対する成果目標の現状を整理しました。

※基本目標別の評価の詳細は下記のURLあるいは右記の二次元コードから閲覧できます。

https://www.city.sayama.saitama.jp/shisei/shisaku/kyouikubunka/3th_hyoka-syosai.html



(1) 基本目標 I 確かな学力と時代の変化に対応する力の育成

① 施策1 確かな学力の育成

項目	実績値 (令和元年度)				実績値 (令和6年度)				目標値 (令和7年度)	
	小学校		中学校		小学校		中学校			
埼玉県 学力・ 学習状 況調査 の平均 正答率	科目	狭山市	埼玉県	狭山市	埼玉県	狭山市	埼玉県	狭山市	埼玉県	全科目で 県平均 正答率を 上回る
	国語	55.5%	56.9%	58.4%	58.7%	55.0%	56.7%	67.2%	66.4%	
	算数	66.1%	66.6%	-	-	49.0%	50.9%	-	-	
	数学	-	-	59.6%	59.3%	-	-	59.9%	57.5%	
	英語	-	-	56.6%	56.1%	-	-	55.0%	54.6%	

項目	区分	実績値 (令和元年度)	実績値 (令和6年度)			目標値 (令和7年度)
			狭山市	埼玉県	全国	
全国学力・学習状況調査 において、学校に行くの が楽しいと答えた児童生 徒の割合	区分	-	狭山市	埼玉県	全国	-
	小学校	87.2%	80.2%	86.3%	84.8%	県、全国平均を 上回る
	中学校	82.4%	86.9%	85.4%	83.8%	

② 施策2 時代の変化に対応した教育の推進

項目	実績値 (令和元年度)	実績値 (令和6年度)	目標値 (令和7年度)
C E F R (セファール) の A 1 相当レベル (※)以上の英語力を持った生徒の割合	55.0%	53.1%	全国の目標値 50.0%を上回る

※C E F R (セファール) の A 1 相当レベル

実用英語技能検定3級、TOEIC スコア 320~620、GTEC スコア 270~689、ケンブリッジ英語検定スコア 110~119 に相当する英語力のこと。

【 評価 】

施策1における、「学校に行くのが楽しい」と感じることは、学校が単なる学習空間にとどまらず、児童生徒にとっての「居場所」として機能していることを示す重要な指標です。一方で、2割程度の児童生徒が、そのように感じていないという事実は、注視すべき点であります。楽しさは「学びの最大のモチベーション」であることから、体験活動の充実や教育環境の工夫などを通して、すべての児童生徒にとって学校が“楽しい”場所、安心して過ごせる場所であるために、今後も、一人一人に寄り添った、魅力ある学校づくりが求められます。

(2) 基本目標Ⅱ 豊かな心の育成と健康・体力の増進

① 施策1 豊かな心の育成

項目			実績値 (令和元年度)		実績値 (令和6年度)		目標値 (令和7年度)	
			小学校	中学校	小学校	中学校	全項目 80.0%以上	
埼玉県学力・学習状況調査における規律ある態度の定着度								
けじめのある生活ができる	時刻を守る	登校時間	94.1%	98.1%	94.7%	97.6%		
		授業開始時間	95.4%	97.3%	91.2%	98.4%		
	身の回りの整理整頓をする	靴そろえ	88.1%	92.5%	82.9%	92.5%		
		整理整頓	86.6%	86.9%	79.7%	79.4%		
礼儀正しく人と接することができる	進んであいさつや返事をする	あいさつ	77.1%	81.4%	77.1%	84.6%		
		返事	89.0%	89.3%	89.1%	92.7%		
	ていねいな言葉づかいを身につける	ていねいな言葉づかい	87.0%	92.5%	87.2%	93.1%		
		やさしい言葉づかい	84.9%	90.1%	84.9%	91.0%		
約束やきまりを守ることができる	学習のきまりを守る	学習準備	85.1%	90.0%	85.5%	93.8%		
		話を聞き発表する	77.0%	73.1%	76.6%	83.0%		
	生活のきまりを守る	集団の場での態度	85.3%	94.3%	86.1%	95.2%		
		掃除・美化活動	89.3%	86.6%	89.5%	91.8%		

② 施策2 生徒指導の充実

項目		実績値 (令和元年度)	実績値 (令和6年度)	目標値 (令和7年度)
		いじめの解消率及び不登校児童生徒の学校復帰率	解消率	81.8%
	学校復帰率	19.7%	20.7%	33.3%

③ 施策3 体力と健康の増進

項目		実績値 (令和元年度)		実績値 (令和6年度)		目標値 (令和7年度)
		小学校	中学校	小学校	中学校	
不足しがちな栄養素 の充足率	カルシウム	101%	94%	99.8%	92.0%	各種栄養素の充足 率を95%以上にす る
	鉄	102%	99%	102.0%	103.0%	
	ビタミンC	137%	100%	122.0%	100.0%	
	食物繊維	86%	86%	95.0%	95.0%	
新体力テストの5段階総合評価のうち上位 3ランク（A・B・C）の児童生徒の割合		81.8%	83.9%	77.5%	79.2%	県の目標値を上回る 小学校 80.0% 中学校 85.0%

【 評価 】

施策2は、いずれの指標も目標値に達していない状況です。特に、「いじめの解消率」は目標値を100パーセントとしていることから、早期発見・早期対応の徹底が不可欠です。また、いじめが起こりにくい学校・学級づくりを推進するため、いじめ及び不登校への対応を強化する必要があります。さらに、スクールカウンセラー*や相談員等と連携し、児童生徒に寄り添った支援体制の充実を図る必要があります。

(3) 基本目標Ⅲ 質が高く魅力ある教育環境の充実

① 施策4 学校施設の充実

項目		実績値 (令和元年度)	実績値 (令和6年度)	目標値 (令和7年度)
学校施設の長寿命化改修の実施校数		0校	1校	1校
小・中学校のトイレ環境整備(※)の達成割合		43.5% (10校/23校)	100.0% (23校/23校)	100% (23校/23校)
児童生徒の情報端末の整備率	小学校	8.9%	100%	100%
	中学校	18.9%	100%	100%

※小・中学校校舎のトイレ内、各校の1系統の環境整備の実施

【 評価 】

施策4は、学校トイレの環境整備など、「狭山市学校施設長寿命化計画」に基づき、適切に進められています。また、GIGAスクール構想*により児童生徒に1人1台端末を配備し、一人一人に応じた個別最適な学び*と協働的な学び*を通じて学習活動や学習課題に取り組んでいます。これらの取組により、すべての項目について目標が達成されていますが、引き続き安全で快適な教育環境の確保に努める必要があります。

(4) 基本目標Ⅳ 家庭や地域との絆づくりの推進

① 施策2 放課後児童対策の充実

項目	実績値 (令和元年度)	実績値 (令和6年度)	目標値 (令和7年度)
学童保育室(※)の待機児童数(4月1日現在)	59人	119人	0人

※学童保育室については令和4年度からこども支援部青少年課へ所管を変更しています

【 評価 】

施策2は、放課後児童対策として、学童保育室職員を対象とした研修会の実施や、指定管理者制度導入による民間事業者のノウハウの活用など、学童保育室の運営を充実しました。加えて、学校の余裕教室をタイムシェアで活用するなどにより募集人数を増員し、受け入れ体制を順次拡充しました。しかしながら、共働き世帯の増加などによる保育ニーズの増加スピードに整備が追いつかず、入室待機児童の解消には至っていない状況です。

(5) 基本目標Ⅴ 自己を磨き社会を支える豊かな学びの振興

① 施策2 生涯学習の機会や場の充実

項目	実績値 (令和元年度)	実績値 (令和6年度)	目標値 (令和7年度)
生涯学習を月に一回以上行っている市民の割合	31.0%	36.9%	40.0%
生涯学習・社会教育に関する事業への参加者数	214,092人	232,089人	223,000人
人権教育に関する事業への参加者数	4,238人	2,532人	4,800人
平和関連事業への参加者数	482人	424人	530人
地域子ども教室への参加者数	8,066人	5,749人	8,250人
市民文化祭への参加団体数	646団体	369団体	650団体
文化財活用事業参加者の満足度	75.0%	99.5%	80.0%
青少年健全育成活動事業への参加者数	2,052人	2,360人	2,200人

※青少年健全育成活動事業については令和4年度からこども支援部青少年課へ所管を変更しています

② 施策3 生涯学習の成果の活用

項目	実績値 (令和元年度)	実績値 (令和6年度)	目標値 (令和7年度)
生涯学習の成果を自分以外のために生かしたいと思う市民の割合	54.4%	59.1%	60.0%
学校支援ボランティアの派遣人数	319人	198人	335人
地域学校協働活動*への参加者数	73,632人	56,410人	75,000人

【 評価 】

施策3は、それぞれの項目で目標未達成となっています。生涯学習の成果の活用を広げることが求められていることに鑑み、学校支援ボランティアや地域学校協働活動※（SCSC）への参加者を増やし、活動をより活性化させる必要があります。また、地域の潜在的な教育力等を掘り起こすような取組も求められます。このことは、「社会に開かれた教育課程」の実現にも寄与するものです。学校教育の充実に地域が重要な役割を果たすことが求められるなかで、支援の輪が広がることが期待されます。

（6）基本目標VI 元気な人づくりと競技力向上を支えるスポーツの振興

① 施策1 市民のスポーツ活動の促進

項目	実績値 (令和元年度)	実績値 (令和6年度)	目標値 (令和7年度)
週1回以上スポーツを実施する市民の割合	32.4%	33.9%	50.0%
スポーツ教室・行事への参加者数	19,874人	12,348人	20,700人

② 施策2 競技スポーツの振興

項目	実績値 (令和元年度)	実績値(※) (令和6年度)	目標値 (令和7年度)
アスリートとのスポーツイベントや講演会等の参加者数	397人	750人	800人

※周年事業や期間限定イベントの参加者は除きます

③ 施策3 スポーツ施設の充実

項目	実績値 (令和元年度)	実績値 (令和6年度)	目標値 (令和7年度)
公共スポーツ施設の利用者数	879,733人	984,070人	880,000人

【 評価 】

施策1は、いずれも目標値に達しておらず、更なる取組の強化が必要です。コロナ過後の社会環境の変化等に対応し、誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境を整備するため、SNSを活用した効果的な情報発信などの啓発活動を推進する必要があります。また、教室やイベントの開催だけでなく、日常生活の中で楽しみながら体を動かす習慣を身に付けられる仕組みづくりなどを進めることが求められます。

3 教育の課題

前計画の取組の評価等を踏まえて、今後の教育の課題を、前計画の基本目標ごとに整理しました。

※各基本目標に係る課題の詳細等については下記のURLあるいは右記の二次元コードから閲覧できます。

https://www.city.sayama.saitama.jp/shisei/shisaku/kyouikubunka/kyoiku_k-syosai.html



(1) 基本目標Ⅰ 確かな学力と時代の変化に対応する力の育成

- 児童生徒の学力向上に向けた取組を継続させることが重要です。
- 児童生徒の授業に対する満足度や理解度を高めるため、個に応じた効果的な指導をより充実させる必要があります。
- 英語力の向上のため、体験活動などを充実させる必要があります。

(2) 基本目標Ⅱ 豊かな心の育成と健康・体力の増進

- 生活習慣や礼儀正しさに重点を置いた教育が必要です。
- いじめ・不登校等の防止対策や相談体制の充実を図るなど、安全・安心な学校づくりが必要です。
- 健康増進や体力増進に向けた取組の充実が求められます。

(3) 基本目標Ⅲ 質が高く魅力ある教育環境の充実

- 教職員の資質向上に向けた研修の開催などの取組を進める必要があります。
- 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携を充実させ、児童生徒の成長過程を通じて一貫した教育を推進することが重要です。
- 学校施設の充実と学校規模と配置の適正化を進めることにより、児童生徒が安心して快適に過ごすことのできる学校環境を整備する必要があります。

(4) 基本目標Ⅳ 家庭や地域との絆づくりの推進

- 家庭・地域・関係団体との協力体制を一層深めるため、連携の強化を図っていくなかで、家庭の教育力と地域の教育力を高めていくことが必要です。
- 学校・家庭・地域が連携し、社会全体で児童生徒を育む環境づくりを行う必要があります。

(5) 基本目標Ⅴ 自己を磨き社会を支える豊かな学びの振興

- 誰もが主体的に生涯学習活動に参加しやすい環境を整備していく必要があります。
- 生涯学習の成果を生かすことのできる環境を整備していく必要があります。
- 地域で学校を支援する活動を活発にしていくことが重要です。

(6) 基本目標Ⅵ 元気な人づくりと競技力向上を支えるスポーツの振興

- 市民のスポーツ活動を活発化するための環境整備に取り組む必要があります。
- 参加率が低い20代と30代を主なターゲットとして広報活動を強化するとともに、参加しやすい開催方法等を検討・実施していく必要があります。
- スポーツ施設に関する情報を積極的に周知するとともに、市民の多様なニーズに対応できるよう、スポーツ施設の整備を進めることが重要です。

